

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

令和3年度 事業報告書

公1 景観まちづくり事業

住民主体のまちづくりの実現と、歴史都市・京都の美しい景観、良好な環境を具現化し、京都の都市としての品格を高めるとともに都市活力の向上に寄与することを目的とする。

1 各種情報の収集、発信及び啓発

(1) 広報活動事業

ア ニュースレター「京まち工房」

景観・まちづくりに関する各種情報、地域、関係団体等の活動状況、当財団の事業等を掲載した広報紙ニュースレター「京まち工房」を発行した。表紙には京都を題材にした漫画を多数手がけるグレゴリ青山氏の漫画「京都人の京都知らず」を掲載し、京町家やまちづくりの知られざる一面を描く。賛助会員、関係団体、大学、区役所等に配架し、広く市民のまちづくりに対する意識を普及・啓発した。令和4年度は、更なる普及・啓発のため表紙面を変更予定

- ・年4回発行（6月、9月、12月、3月） ・各号4,500部
- ・賛助会員、全国のまちづくり関連機関、京都府下大学等へ配布

号数	発行日	概要
第95号	R03. 6. 20	(特集) みんなでつくろう 地域の防災まちづくり計画 オンライン化! 景観まちづくり大学 他
第96号	R03. 9. 20	(特集) 六原でまちづくりに ICT活用 「坂のまち」今熊野の防災まちづくり計画 他
第97号	R03. 12. 20	(特集) 空と月の下に 先斗町の景観づくり 「八田邸」が竣工しました 「MATCH YA」公開 他
第98号	R04. 3. 20	(特集) 笹屋町一丁目の景観まちづくり まちあるき講座、京町家見学会 他

イ 財団ホームページ等

平成28年3月に新設した財団ホームページを活用し、当財団の取組や景観・まちづくりに関する最新情報を発信した。財団公式のフェイスブックページでは、イベント情報や当財団の活動状況等を積極的に発信することで情報力強化に努めた。

- ・財団ホームページアクセス件数 89,486件（令和2年度末実績 72,128件）
- ・ひと・まち交流館内・センター（施設）ホームページアクセス件数 258,721件（令和2年度末実績 236,882件）
- ・メールマガジン配信 24回（令和2年度末実績 29回）
- ・メールマガジン購読者数 1,916人（令和2年度末実績 1,896人）
- ・公式フェイスブックページ投稿数 65件（令和2年度末実績 65件）

ウ 各種啓発冊子、技術資料等の販売

当財団が発行する書籍や受託販売書籍、京町家等組み立てキットなど、景観・まちづくりに関する各種啓発冊子等を販売した。

(7) 冊子等の販売

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| ① なるほど！「京町家の改修」 | ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター) |
| ② 京町家の再生 | ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター) |
| ③ 京町家物語 | ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター) |
| ④ Kyoto Machiya Restaurant Guide | (Judith Clancy) |
| ⑤ 町家型共同住宅設計ガイドブック | (京都市) |
| ⑥ 大学的京都ガイド | (榊昭和堂) |
| ⑦ 京都・岡崎年代史 | (京都岡崎魅力づくり推進協議会) ほか |

(4) 京町家キット等の販売

- | | |
|---------------|------------------------|
| ① 京町家等の組立式キット | (榊さんけい) |
| ② 京町家ポストカード | ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター) |

(2) 景観・まちづくり大学等

住民の主体的な地域まちづくり活動の展開に向けて、住民が自らの居住する地域を理解し、魅力あふれる安心・安全なまちづくりを自らの役割として自覚し、地域ごとの具体的な課題解決に向けた取組を進める必要がある。

そのため、令和3年度は、引き続き、まちづくりの担い手育成を目指し、京都のまちの成り立ちや、様々な時代背景での人々の営み、その中で育まれたまちづくりの智慧など、まちづくりに取り組むうえでの基礎的な知識等を習得する講座を実施した。

京町家の保全・再生では、京町家の所有者、居住者を主な対象としつつ、居住や利活用を検討している方、京町家でのからしに関心を持つ方等にも参考となる、実践を重視したカリキュラムを中心とし、京町家の継承等に係る基本的な課題解決と京町家の魅力の普及を図った。

ア 京のまちづくり史連続講座

まちづくりに関心の高い市民、学生、専門家を対象に、京都の景観形成とまちづくりの歴史を学び、京都の景観形成に資するまちづくりに対する理解を深めた。

オンラインでの開催を基本とし、少数でのワークショップルーム受講を併用して実施した。

※全9回 有料 1回1,010円(通年受講は5,090円)

開催日	講座名	講師(話し手)	出席者
R3.5.28	京都観光まちづくりの近現代、インバウンド再生をイタリアと京都から考える	宗田好史氏(京都府立大学教授)	49
R3.6.25	伏見市の京都市編入の要因と影響	小野芳郎氏(京都工芸繊維大学理事・副学長)	47
R3.7.9	近代の絵葉書から見る嵐山の景観特性	深町加津枝氏(京都大学大学院准教授)	45

R3. 8. 6	建物疎開の実態と戦後への影響	川口朋子氏（京都大学大学文書館 特定助教）	45
R3. 9. 24	近代の都市水害とその要因を考える	谷端郷氏（北海道学園大学文書館 講師）	33
R3. 11. 26	京料理と「菜園都市」京都の形成	並松信久氏（京都産業大学教授）	21
R3. 12. 10	近代における四条通の商業集積	渡邊秀一氏（佛教大学教授）	22
R4. 1. 28	1960年代の京都市における総合計画からみる都市像の変容	阿部大輔氏（龍谷大学教授） 田中優大氏（㈱URリンケージ）	44
R4. 2. 25	デジタル資料からたどる昔と今のまちなみ	矢野桂司氏（立命館大学教授）	35
合計			341

イ 京のまちづくり史関連企画 まちあるき講座

歴史的な町並みや、実際に行われているまちづくりの取り組みを、そのまちを歩き、見て学ぶことで、まちづくりの対する理解をより深め、鴨川運河周辺のまちづくりの活動を手がかりに、地域の資源をどのようにまちづくりに生かしていけるか考える機会となった。

※全1回 有料 1回1,000円

開催日	講座名	講師（話し手）	出席者
R3. 10. 23	鴨川運河を歩く 一橋がおりなす水辺景観ー	篁正康氏（NPO 法人京都景観フォーラム 理事）	18
合計			18

ウ 京町家再生セミナー

主に京町家の所有者、居住者を中心として京町家に関心のある方を対象に、町家の暮らし、活用、継承への実践的知識を深めるため、京町家の維持管理、改修、活用、相続等について専門家による講義を行った。

事例見学会を除き、オンラインでの開催を基本とし、少数でのワークショップルーム受講を併用して実施した。

※全8回 有料 1回500円

開催日	講座名	講師（話し手）	出席者
R3. 5. 21	大正から昭和初期の京町家の発展	中川等氏（大阪産業大学准教授）	47
R3. 6. 26	亀屋町萬年荘 ー職住一体の住まいづくりー	荒川朱美氏（㈱テクトスタジオ取締役、京都芸術大学教授）	24
R3. 7. 29	「町家」と「京町家」 ーその地域と普遍性ー	大場修氏（立命館大学衣笠総合研究機構教授）	59
R3. 9. 16	京町家の可能性ーすまいとして、交流の場としてー	魚谷繁礼氏（㈱魚谷繁礼建築研究所代表、京都工芸繊維大学特任教授）	28
R3. 10. 29	京町家を取り巻く近隣の変化 ーその影響を知るー	辻勇治氏（㈱辻工務店代表、京町家相談員）、玉村匡氏（弁護士、京町家相談員）	27

京町家再生事例見学会 R3. 11. 23	路地のある京町家の再生事例を訪ねて	喜多見すみ江氏(きっさこ和東オーナー)、熊田孝氏(建築士、京町家相談員)	19
R4. 2. 9	京町家の素材の美 —土の美と性質—	森田一弥氏(京都府立大学准教授)	27
R4. 3. 10	京町家、様々なものの寿命と小規模改修	小野敏明氏(京町家相談員(大工)、(株)アラキ工務店)	29
合計			260

エ 各種団体等との協働セミナー等

景観・まちづくりに関わる、地域、市民団体、職能団体、NPO法人、学会、他都市の中間支援組織等との協働により、セミナー等を共催した。

(7) 景観エリアマネジメント講座

まちづくりに関わる様々な分野の専門家を対象に、京都の景観に対する幅広い知識と高い見識を持つ人材を養成することを目的として、その知識を得るための基礎講座、フィールドワークを中心に地域での活動に必要なスキルを得るための実践講座をNPO法人京都景観フォーラムとの共催事業として開催した。

・基礎講座(全8回)

開催日	内容	講師	出席者
R3. 7. 10	基礎理論(1)	堀繁氏(東京大学大学院教授)	31
R3. 8. 21	基礎理論(2) WS: 景観スキルの活かし方	宗田好史氏(京都府立大学大学院教授) 緊急事態宣言を受け中止。同時刻にオンラインでの特別講座を実施した	38
中止 (R3. 9. 18)	景観と都市形成 WS: 地域の調べ方	中嶋節子氏(京都大学大学院教授)	—
R3. 10. 16	まちとまちなみ WS: フィールドワークで情報収集→まちのことを調べてみよう(順番変更)	森重幸子氏(京都美術工芸大学准教授) 魚谷繁礼氏(魚谷繁礼建築研究所/京都工芸繊維大学特任教授)	28
R3. 11. 20	公共空間のデザイン WS: 景観の課題抽出→まちを見てみよう(順番変更)	山口敬太氏(京都大学大学院准教授)	28
R3. 12. 11	京の生活文化	町田香氏(京都芸術大学非常勤講師) 谷晃氏(野村美術館館長) 笹岡隆甫氏(華道「未生流笹岡」家元)	25 24※ 25
R3. 12. 18	WS: 地域の景観課題を見出してみよう WS: 景観エリアマネージャーの役割とは	(午前) 8/21 実施予定のWSの振替 (午後) 9/18 実施予定のWSの振替 宗田好史氏(京都府立大学大学院教授) 梅野星歩氏(梅鉢園) 前田弘二氏(立志社) 青山優子氏(美山ギャラリー甚弥)	18 16
R4. 1. 22	自然資源と観光資源の活用	深町加津枝氏(京都大学大学院准教授) 阿部大輔氏(龍谷大学教授) 村上佳代氏(文化庁文化財調査官)	23 26 25

R4. 2. 19	景観まちづくり・修了式	高田光雄氏（京都美術工芸大学教授）	22
-----------	-------------	-------------------	----

※講義単位での受講のため受講者数が変動

・実践講座（全7回）

開催日	内容	講師	出席者
R3. 6. 26	オリエンテーション GW:資料収集		6
R3. 7. 11	景観を理解する GW:現地調査、課題設定	堀繁氏（東京大学大学院教授）	8
R3. 8. 7	先輩エリマネの事例 GW:ビジョンとプロセス検討1	梅野星歩氏（梅鉢園） 前田弘二氏（立志社） 青山優子氏（美山ギャラリー甚弥）	6
延期 (R3. 9. 11)	地域のまちづくり事例 GW:ビジョンとプロセス検討2	長坂生人氏 （桂坂景観まちづくり協議会事務局長） 奥田朋子氏 （祇園新橋景観づくり協議会代表）	—
R3. 10. 9	GW 発表会 WS: 実践における課題と対策	—	8
R3. 11. 13	個人レポートゼミ1	—	6
R3. 12. 11	個人レポートゼミ2	—	5
R4. 2. 19	個人レポート発表会・修了式	—	8

(イ) 文化財マネージャー育成講座

京都市、NPO法人古材文化の会とともに「京都市文化財マネージャー育成実行委員会」を構成し、同委員会の主催により、歴史的建造物の調査・保存・活用やまちづくりを実践する文化財マネージャー（建造物）を育成することを目的とする「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」、及び文化財マネージャー（建造物）のスキルアップを目的とする「京都市文化財マネージャー育成講座スキルアップ講座」を開催した。

「第12期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月4日の講座を最後に延期していたが、令和3年9月25日から再開し、令和4年3月26日に終了している。

・第12期文化財マネージャー育成講座（建造物）

開催日	内容	講師
令和元年度開催		
R2. 1. 11	開講式・オリエンテーション 保存・活用概論 受講者・スタッフ自己紹介	日向進（NPO 法人古材文化の会） 中川慶太・三原一男（京都市）
R2. 1. 25	民家建築	中川等（大阪産業大学）
	京都の文化財	石川祐一（京都市）
R2. 2. 8	住宅建築	日向進（NPO 法人古材文化の会）
	歴史的建造物の継承と暮らし	秦めぐみ（秦家住宅）

	京都市登録有形文化財・秦家住宅、重要文化財・杉本家住宅の見学	
	寺社建築	
R2. 2. 22	歴史的建造物の技法／瓦葺	菅澤茂（工学院大学）
	歴史的建造物の技法／左官	寺本光男（瓦葺職）、浅原雄三（左官職）
	文化財保護法	修了課題、演習1の説明
R2. 3. 7	演習1 指定文化財の修理現場見学 ※武内正和氏（文化庁）の講座はコロナで中止。萬福寺の見学のみ実施	－
R2. 3. 21	循環型社会と保存・活用	浅岡美恵（弁護士）
	近代洋風建築	石田潤一郎（武庫川女子大学）
	歴史的建造物の再生理念	藤岡龍介（建築家）
	観光活用とその課題	糟谷範子（京都市）
令和2年度開催		
R2. 4. 4	庭園の様式	仲隆裕（京都造形芸術大学）
	保存・活用のマネジメント	宗田好史（京都府立大学）
	歴史的建造物の調査と評価	中川等（大阪産業大学）
令和3年度開催		
R3. 9. 25	再開オリエンテーション 演習2、3、終了課題の説明	－
	保存・活用と再生設計／構造設計	井手晃二（構造設計家）
	保存・活用と再生設計／意匠設計	木下龍一（建築家）
	指物の技法	大谷普賢（伝統工芸士）
R3. 10. 9	文化財保護法	石川祐一（京都市）
	建築基準法・景観法	中川貴夫、井上慎也（京都市）
	歴史的建造物の耐震補強	井上年和（京都美術工芸大学）
R3. 10. 23	歴史的環境の整備	山崎正史（立命館大学）
	保存・活用とまちづくり/西舞鶴	大滝雄介（建築家・文マネ）
	保存・活用とまちづくり/歴史的建造物を見守る活動	原田純子（文マネ・見守るマネージャー）
R3. 11. 6	歴史的建造物と防災対策	益田兼房（国際記念物遺跡会議文化遺産防災国際学術委員会）
	歴史的建造物の継承と税金	辻本尚子（税理士）
R4. 3. 26	修了課題発表会 講座修了式・修了証書授与	会場 ワークショップルーム1、2

・文化財マネージャー育成講座スキルアップ講座

開催日	名称	講師
R3. 11. 26	歴史的な町並みのまちづくり活動を学ぶ	先斗町まちづくり協議会の活動紹介と文化財マネージャーへの期待 神戸啓氏（先斗町まちづくり協議会事務局長）

R3. 12. 24	文化財の防災と復旧を学ぶ講座	文化財防災について 室崎益輝氏（兵庫県立大学大学院教授）、湯井恵美子氏（福祉防災コミュニティ協会 上級コーチ）
R4. 1. 16	歴史的建造物の維持管理を学ぶ講座 ※京都を彩る建物や庭園所有者交流事業との合同開催	歴史的建造物の日常のメンテナンス 風月匠廣氏

2 市民等の活動に対する総合的支援

(1) 地域活動支援

地域の魅力向上や課題解決に向けて、景観づくりやまちのルールづくり、防災まちづくりに取り組む地域を支援し、魅力あふれる安心・安全な地域づくりを進めた。

ア 景観・まちづくり相談

当財団職員が、自主的なまちづくり活動に取り組もうとしている地域に対して、様々なアドバイスや各種情報提供等を行い、活動の継続、活動内容の更なる充実につなげた。

相談・支援件数 315件（令和2年度 330件）

相談・支援内容	令和3年度 件数	令和2年度 件数
地域まちづくり活動、地域の現状等	187	224
マンション問題	19	7
当財団事業概要（まちづくり活動支援事業等）	4	5
景観・まちづくりに関するルール（式目、地区計画、地域景観づくり協議会、建築協定等）	51	64
法律、条例関係（都市計画法、景観法、建築基準法等）	45	34
防災まちづくり	159	191
まちづくりコーディネート事業	212	220
その他（地域課題、講座、学生対応、視察等）	64	35
合計	741	780

イ まちづくり専門家派遣

課題に応じて、まちづくりの専門家を地域に派遣し、地域活動を支援した。
※京都市からの委託事業における専門家派遣は別途記載

地区等	支援内容
東山区 祇園東地区石畳協議会 準備会	地域における石畳舗装化の協議会設置に向けたヒアリング調査、地域の意向確認、石畳維持管理の覚書作成の支援に取り組んだ。
左京区 戸寺まちづくり推進委員会	大原戸寺地区計画の策定に向けて、地域の意向調査、地区計画案の作成、現地調査・課題分析などの取組を支援した。
下京区 有隣まちづくり委員会	避難所運営マニュアルの作成支援及び防災まちづくりの具体的な取組への助言等を行った。
山科区 清水焼団地 まちづくりを 考える会	まちづくり活動を継続できる体制づくりや、陶芸作家や事業所、住民が一体となったまちづくりの検討等の支援を行った。
東山区 今熊野学区自主防災会	学区住民を対象とした大雨土砂災害避難訓練での防災まちづくり計画書の勉強会の取組や、今後の取組の検討について支援を行った。
中京区 壬生賀陽御所町	町内のマンション建設計画に伴い、地域の景観や独自の建築ルールの勉強会や検討を行った。

ウ まちづくり活動助成

まちづくり活動を継続的に取り組む地域に対して、運営活動費（活動広報物の作成や地域での勉強会の開催、地域景観づくり計画書の印刷）を助成した。

地区等	支援内容
左京区 大原自治連合会	「防災まちづくりニュース」の印刷費及び勉強会の講師謝礼
上京区 笹屋町一丁目景観まちづくり協議会	「地域景観づくり計画書」の印刷費

エ 専門家育成講座

令和3年度は、風水害対策に関心の高い地域への支援ツールとしての活用を視野に入れ、風水害24（ゲーム）体験会を開催した。台風の発生から直撃・通過までの24時間をリアルに体験することを通じて、災害発生前からの必要な知識を学び、適切な判断や行動ができるような風水害リテラシーを高めるプログラムである。

オ 景観づくり支援（京都市受託事業）

地域の個性を活かした魅力ある景観まちづくりを一層推進するため、京都市が実施する地域景観づくり協議会制度の普及啓発を図るとともに、各地域への専門家の派遣等、制度の活用及び地域活動の充実に向けた支援を行った。

(7) 「京都市地域景観まちづくりネットワーク」の活動支援

京都市に認定された協議会で構成される「京都市地域景観まちづくりネットワーク」の定例会議を企画・運営し、各地域間の情報及び課題の共有と、本制度運用のあり方等の協議を行った。

京都市地域景観まちづくりネットワーク構成団体（計 11 地区）	
（中京区）	先斗町まちづくり協議会、姉小路界限まちづくり協議会、明倫自治連合会
（下京区）	修徳景観づくり協議会
（東山区）	西之町まちづくり協議会、一念坂・二寧坂 古都に燃える会 祇園新橋まちづくり協議会
（右京区）	仁和寺門前まちづくり協議会、京の三条まちづくり協議会、嵐山まちづくり協議会
（西京区）	桂坂景観づくり協議会

(イ) 各協議会及び今後制度活用を検討する地域への専門家派遣等の支援

地域景観づくり計画の策定や、各協議会が実施する意見交換会等の活動、地域が行う夜間景観の検討の取組に対して、専門家の派遣を行った。

地区等	状況	支援内容
右京区 嵐山まちづくり 協議会	協議会 設立済 計画書策定済	「嵐山まちづくり協議会」への活動支援 景観づくり計画の認定後に実施されることとなる事前 協議や課題解決の取組についてアドバイスをを行った。
上京区 笹屋町一丁目景 観づくり協議会	協議会 設立済 計画書策定	「笹屋町一丁目景観づくり協議会」への活動支援 地域景観づくり計画書の策定に向けた支援を行っ た。
中京区 先斗町まちづく り協議会	協議会 設立済 計画書策定済	「先斗町まちづくり協議会」への活動支援 鴨川を視野に入れた、先斗町の夜間景観の創出に向 けた支援を行った。

(ウ) 次代の担い手づくりの検討・調査

多くの地域でまちづくりの担い手不足が課題であり、新しい担い手をどのように考えるか検討する取組を行った。主に地域外から移転・移住してきた人で、地域の自治組織との関係を築き、その地域で活動を行い、地域の景観まちづくりに寄与する可能性のある人や団体を次代の担い手と仮定し、それら地域の方も含めたヒアリング調査を行った。

調査対象地域	調査対象者	移住等の動機・地域との関り
中京区 宮本町	宮本町（町内会長） × SUMAO（雑貨店） 元まちセンコーディネーター	町家に住み、一部を店舗として地域行事や 役員活動に積極的に取り組んでいる。

東山区 六原学区	六原自治連合会（事務局長） まちづくり委員会 × HAPS 東山・アーティスト・プレイメント・サービス	アーティストと活動の場を繋ぐ。初期は空き家、現在はまちの活性化という課題に対して、まちづくり委員会で情報共有しながら取り組んでいる。
中京区 壬生淵田町	町内会（予定） × KYOTO LANDRY CAFE	出身地への愛着から、Café やイベントにおいて、主な客である近隣住民等と対話することで、人同士をつなげてまちを盛り上げている。

カ 防災まちづくり専門家派遣（京都市受託事業）

密集市街地内において防災まちづくりに取り組む地域に専門家を派遣し、防災まちづくり計画の策定や計画実現のための各種活動に対する支援を行った。

地区等	状況	支援内容
上京区 乾隆学区 【新規】	防災まちづくり計画策定に向け取組中	「防災まちづくり計画」の策定に向け、専門家を派遣した。 防災まちあるきなどの取組を通して、地域の防災に対する機運の醸成や課題の共有を行い、実施可能な対策の検討や啓発を行った。 (防災まちづくりの取組1年目)
東山区 粟田学区		「防災まちづくり計画」の策定に向け、専門家を派遣した。 防災勉強会、まちあるきと意見交換会及び実施した内容の情報発信等を行った。 (防災まちづくりの取組2年目)
下京区 醒泉学区		「防災まちづくり計画」の策定に向け、専門家を派遣した。 地域の防災に対する機運を醸成し、防災まちあるきやマップ作りを通して課題の共有を図った。 (防災まちづくりの取組2年目)
中京区 梅屋学区	3年度 防災まちづくり計画策定	「防災まちづくり計画」の策定に向け、専門家を派遣した。 自主防災部長や関係団体を対象としたワークショップ、防災まちづくりの取組のニュース配布を実施し、地域主体の防災まちづくりに向けて継続的に取り組み、防災まちづくり計画を策定した。 (防災まちづくりの取組3年目)
中京区 本能学区		「防災まちづくり計画」の策定に向け、専門家を派遣した。 防災部長を対象とした意見交換会の実施や、ニュース等による周知・啓発等を行い、防災まちづくり計画を策定した。 (防災まちづくりの取組3年目)
右京区 御室学区*	防災まちづくり計画策定済	「防災まちづくり計画」の実現に向け、専門家を派遣した。 防災訓練で、クイズ形式による防災まちづくりの取組や、情報を提供し、学区全体の防災意識の向上を図った。 (防災まちづくりの取組6年目)

上京区 聚楽学区※		「防災まちづくり計画」の実現に向け、専門家を派遣した。 耐震ローラー作戦を行い、防災部長や町会長が、学区内の通りや路地に面した建物等を戸別訪問して耐震診断等の案内を行った。 (防災まちづくりの取組6年目)
--------------	--	--

※は、令和3年度改正前の密集市街地内の「優先的に防災まちづくりを進める地区」を示す。

キ 建築協定等を活用したまちづくり専門家派遣（京都市受託事業）

建築協定の締結又は地区計画の策定等を目指してまちづくり活動を行う地区を対象に、専門家を派遣し、地域住民の主体的な取組に対して支援を行うとともに、建築協定地区64地区が加入する京都市建築協定連絡協議会の活動支援を行った。

(7) 専門家派遣

新たに建築協定制度又は地区計画制度の活用を検討する地域等へ、専門家の派遣を行った。

地区等	支援内容
東山区 祇園四条地区	「祇園商店街振興組合」への活動支援 祇園四条地区における宿泊施設の在り方について、地区計画の変更を見据えた検討準備を進めており、計画変更に関わる要素について、地区内の検討と合意形成に向けた取組を進めるための支援を行った。
上京区 西柳町	「上七軒ホテル対策委員会」への活動支援 町内でのホテル建設計画が持ち上がったことを契機に、地域から建築協定を締結したいという要望があったため、専門家を派遣し、今後の流れや留意点など、締結に向けた助言を行った。

(1) 連絡協議会への活動支援

総会、役員会、研修会などの活動支援や、協議会の活動を対象とした補助金の交付を行った。

(2) 京町家再生支援

ア 京町家なんでも相談

京町家の保全、再生、活用について、京町家所有者・居住者の多くが様々な悩みを抱えている。本事業は財団の京町家事業の総合窓口として、相談者に寄り添い、悩みに対して複合的な課題の整理や具体的な方策を示すことにより課題解決につなげた。

(7) 一般相談 416件（令和2年度実績 486件）

当財団職員が一次対応として、相談内容に応じて各種公的制度、専門相談および団体紹介を行った。

(イ) 専門相談 53件 ※自主事業4件、受託事業49件 (令和2年度実績 38件)

大工、建築士、不動産事業者等の実務者による専門相談を行った。平成30年10月以降、専門相談は京都市委託事業「京町家相談員制度等の運用業務」として実施している。令和3年度に委託事業として実施した専門相談の件数は49件であり、自主事業とあわせ53件となる。

【相談項目内訳】

令和4年3月31日時点

相談項目	合計件数
改修・修繕	154
活用	68
賃貸	26
売買	25
耐震、防火	12
相隣問題	32
相続、所有権関係	11
維持・管理	13
資金、公的な支援制度	88
その他(視察、協力依頼、情報提供など)	112
京町家まちづくりファンド	29
京町家カルテ	52
京町家等継承ネット	18
合計件数	640

※複数選択のため、相談件数の合計とは一致しない。

(参考) 京町家等継承ネット事業としても相談対応を行っている。

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で相談会は開催を見送った。

(ウ) 京町家専門相談員

平成30年10月以降、専門相談は京都市委託事業「京町家相談員制度等の運用業務」として実施し、「京都市京町家相談員」と制度を新たにした。

令和3年度は新規登録の募集(公募:宅地建物取引士、大工、建築士、税理士 団体推薦:不動産鑑定士、土地家屋調査士、弁護士、司法書士、行政書士)を行い、21名の新規京町家相談員の登録を行った。新規登録に際しては、登録研修を行った。

既登録の京町家相談員のうち74名が登録更新を行った。登録更新にあたっては、更新研修(京町家改修工事見学会1回、オンラインでの講座2回)を行った。

京都市京町家相談員登録者数 95名(令和4年4月1日時点)

イ 京町家データベース

平成20～21年度京町家まちづくり調査によって調査した約48,000件の京町家等を元にIDを付与した京町家をエクセルファイルにて管理し、あわせてGIS（地理情報システム）を用いて、地図上にて地理的な情報として管理・出力している。

個々の京町家について、専門相談、京町家カルテ、京町家まちづくりファンド、建物調査報告書の作成等の相談・対応履歴を入力し、年度毎、個々の京町家に関する情報を一元的に管理する京町家データベースを運営している。

ウ 京町家等継承ネット

京町家等の適切な継承を促進することを目的として、平成26年11月21日、京町家継承ネット（代表 高田光雄 京都美術工芸大学教授、京都大学大名誉教授）が設立された。当財団は事務局として、京町家継承ネットを構成する京町家等の継承に関わる多くの団体、所有者や居住者とともに、京町家等の保全・継承に取り組んでいる。

令和3年度は、引き続き、大型町家や景観重要建造物に値する京町家に対して積極的な相談対応を行うとともに、国土交通省補助事業「令和3年度住宅市場を活用した空き家対策モデル事業」に採択され、「京町家等のクリエイティブ拠点創出に向けた企業誘致推進事業」と題し、京町家等の担い手となる入居者・事業者の掘り起こし、空き家所有者の利活用意向の醸成、支援専門家の育成を目的とした事業に取り組んだ。（補助金額200万円）

(7) 運営に関する行事

開催日	内容	出席者
R3. 6. 21	京町家等継承ネット第8回全体会議（オンライン開催） ・前年度決算、事業計画等の承認	39
R3. 4. 27	京町家等継承ネットコア会議 ・個別の相談案件に関する往訪相談	7
R3. 5. 25	京町家等継承ネットコア会議 ・個別の相談案件に関する往訪相談	5
R3. 6. 17	京町家等継承ネットコア会議 ・相談案件、活用希望者の情報共有、活用に関する意見交換等	6
R3. 11. 11	京町家等継承ネットコア会議 ・個別の活用希望事業者の相談案件に関する相談対応等	5
R4. 2. 22	京町家等継承ネットコア会議 ・個別の相談案件に関する往訪相談	7
R4. 3. 17	京町家等継承ネットコア会議 ・個別の相談案件に関する往訪相談	8

(イ) 普及・啓発の取組

・活用事例に関連したトークセッションの開催

以下のトークセッションの開催（オンライン開催）による普及・啓発に取り組んだ。

【トークセッション vol.1】 R4.2.14 参加者 105 名

対 象：首都圏の企業、起業家

テーマ：「京都」という選択。

登壇者：近藤淳也（株式会社 OND 代表取締役社長）

田根佐和子（株式会社ロフトワーク MTRL プロデューサー）

（司会）柳沢究（京都大学大学院工学研究科准教授）

【トークセッション vol.2】 R4.2.17 参加者 75 名

対 象：京町家等の保全・継承に係る支援専門家、空き家所有者

テーマ：「京町家」を継ぐということ。

登壇者：荒川朋彦（有限会社キタ商事取締役）

小笹嘉洋（京町家所有者）

（司会）高村学人（立命館大学政策科学部教授）

(ウ) 支援システムの開発に係る取組

① 大型町家継承モデルプロジェクト

（継承ネットにて相談対応を行った京町家相談案件 24 件）

京町家なんでも相談等で受けた相談案件の大型町家について、京町家等継承ネットにて継承・活用提案や公的指定のため往訪相談及び活用提案を行った。

② 歴史的建築物の保全・継承に向けた公民連携による方策の意見交換会

京町家をはじめとした歴史的建築物の保全及び継承の一層の促進を目的として、公民連携による今後の方策について意見交換の場を設けた。大型町家継承モデルプロジェクトの案件や最新事例をベースに実務的な解決策を検討している。

また、WEB サイト「MATCH YA」の拡充に向けた意見交換の場としても活用した。

開催日	内 容	出席者
R3. 4. 26	新たな活用や資金調達手法、大型町家の情報掲載サイトについて 話題提供：京都府不動産コンサルティング協会副理事長 山下善彦氏	20
R3. 6. 18	京町家継承ネット WEB サイト「MATCH YA」のリニューアルについて	10
R3. 8. 26	京町家等の不動産市場流通の動向と不動産事業者の意向について	13
R3. 9. 14	歴史的建築物の保全・継承に向けた公民連携による資金調達スキームの検討、及び投資のニーズについて 話題提供：三菱商事・ユービーエス・リアルティ株式会社 三輪慎一氏	29
R3. 12. 22	京都の不動産への最近のニーズに関する感触やクリエイティブ拠点の可能性について 話題提供：株式会社 51ActionR&D(京都 R 不動産運営)代表取締役 水口貴之氏	19

主な参加者

所 属		氏名（敬称略）
京都美術工芸大学	教授	高田 光雄
京都府宅地建物取引業協会	情報提供委員会委員長代理	山田 崇博
全日本不動産協会京都府本部	理事	田中 勇人
都市居住推進研究会	運営委員	西村 孝平
京町家居住支援者会議	事務局長	吉田 光一
京都府不動産コンサルティング協会	副理事長 全国不動産コンサルティング協会会長	山下 善彦 井上 誠二
一般社団法人 相続相談センター	理事長	岡本 秀巳
京町家情報センター	事務局長	スティーブン・ホアン
都市計画局まち再生・創造推進室		
都市計画局建築指導部建築指導課		
都市計画局都市景観部景観政策課		
文化市民局文化財保護課		
産業観光局産業イノベーション推進室		

③歴史的建築物の保全に向けた支援システムの開発

不動産関係団体・事業者との連携によって、不動産情報ポータルサイト「MATCH YA」を拡充し、京町家等の不動産情報（常時約30件掲載）を公開した。

公開に向けて、掲載物件の条件整理や物件掲載・更新のシステム構築などを行った。広報の結果、不動産情報サイトのSUUMOジャーナルに取材記事を掲載されるなど大きな反響があった。

成約件数 令和3年10月以降 8件

④改修・活用事例の収集・紹介、京町家クリエイティブ拠点の魅力等の整理

京町家オフィス等活用事例を収集・整理して18件の事例シートを作成し、うち4件を「MATCH YA」にて紹介、また、活用希望者の傾向を把握し、京町家クリエイティブ拠点の魅力と留意点をまとめた整理シートを作成した。令和4年度に支援ツールとして公開を予定している。

⑤相談体制の強化

企業誘致を推進する京都市の東京事務所や産業イノベーション推進室等との協力体制を築いた。

トークセッションの告知に協力いただき、首都圏の企業等への発信を行った。その結果、京都市から紹介を受けた2社が、京町家等継承ネットからの情報提供を経て京町家オフィスを設ける運びとなった。

MATCH YA 登録事業者と連携して、活用希望者への不動産情報の提供や内覧対応を実施した。

エ 京都国際写真祭 KYOTOGRAPHIE との共催事業

京町家の魅力や創造性を国内外に広く周知する機会として、京都国際写真祭 KYOTOGRAPHIE と連携し、「MACHIYA VISION」展を企画した。展示や WEB 媒体での作品の発信により、京町家を新たに知り、居住や利活用を希望するクリエイティブ層の獲得を図る目的である。

令和3年度は、展示開催のための準備として、京町家に関わる専門家や活動家の方々へのインタビュー、ダイアログ等の収録、また会場となった京町家の撮影等を行った（令和4年4月9日から5月8日の期間、2会場の京町家で展示やイベントを開催した）。

オ 京町家の保全・継承に向けての動向調査

京都美術工芸大学との共同研究により、京町家の保全・継承に向けて、所有者・居住者の状況、職能団体、市民活動団体、行政等の取組を横断的に調査・整理することによって、京町家を取り巻く現況を把握し、今後の保全・継承の支援の参考資料とした。

3 各種団体等との交流及び協働活動

ワールド・モニュメント財団（WMF）との連携

ワールド・モニュメント財団との連携を継続するとともに、京町家の魅力と現代的価値を海外に情報発信することで、海外の諸支援団体とのネットワークの形成を図る。

令和3年度は WMF 関係者の来日が新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止された。

（参考）

京町家再生プロジェクト	第1期	釜座町町家（平成23年度）
	第2期	旧村西家住宅（平成24年度）
	第3期	四条町大船鉾会所（平成28～令和元年度）

<近年の実績>

H30.9	2018年ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞受賞
R1.5	ワールド・モニュメント財団役員、寄付者の来訪
R1.9	2019年ベスト・イン・ヘリテイジで発表、優秀賞受賞

4 歴史的建造物の保全、再生、活用に関する各種の支援及び普及、啓発

(1) 歴史的建造物の再生、活用助成関連事業

京都の歴史及び文化の象徴であり、都市居住を支えてきた京町家を育み、未来に伝えるため、寄附金を積み立て、その運用により、京町家の保全、再生、活用を促進し、京都固有の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化の継承・発展と、町並み景観の保全及び創造、さらには地域経済の活性化を図ることを目的として、京町家まちづくりファンドを運営する。

平成30年度の京町家条例の施行を受け、京都市における公的助成の支援メニューが充実したため、令和元年度より京町家まちづくりファンドの位置づけや助成制度の対象等を見直し、改修助成事業の今後の方針について転換を図った。令和3年度は昨年度に引き続き、市民に開かれた場づくりやまちづくり活動に寄与する京町家の改修、町並みの保全の観点から通り景観の修景への支援を行った。

ア 京町家まちづくりファンド委員会運営

令和3年8月23日 第46回京町家まちづくりファンド委員会開催

令和4年3月24日 第47回京町家まちづくりファンド委員会開催

＜令和3年度 京町家まちづくりファンド改修助成事業の選定について＞

令和3年度は、京町家の改修2件、通り景観の修景1件を選定した。

- ・ 郭巨山町会所（下京区四条通西洞院東入郭巨山町）
- ・ 三条会商店街の町家（中京区三条通堀川西入橋西町）
- ・ 吉田神楽岡旧谷川住宅群（左京区吉田神楽岡町）

各案件の工事進捗については後述する。

京町家まちづくりファンド委員会委員

【令和3年度委員】敬称略

大場 修	（委員長）	立命館大学衣笠総合研究機構教授
島田 昭彦	（副委員長）	地域活性プロデューサー、京都観光おもてなし大使、 （株）クリップ代表取締役
浅井 國勝		京都商工会議所 議員、株式会社朝日堂 代表取締役会長
カルドネル島井 佐枝		MUZ ART PRODUCE 代表
島村 泰彰		京都市都市計画局まち再生・創造推進室 都市づくり企画担当部長
深尾 昌峰		龍谷大学政策学部教授

イ 京町家まちづくりファンドの普及啓発事業

(7) 京町家まちづくりファンドWEBサイトリニューアル

京町家まちづくりファンドの取組をより効果的に発信し、寄附の誘導を図るデザインとするため、約8年ぶりにWEBリニューアルを行い、令和3年9月末に公開した。リニューアルの内容は以下のとおりである。

- ・ 暮らし、移住などの視点から、当ファンドの助成により改修された京町家の所有者・居住者へのインタビューを行い、京町家の魅力を伝えるライターによるエッセイ記事を特別企画として連載した。
- ・ 寄附者の御芳名や一部の寄附者による応援の声を掲載した。寄附控除の対象となることを御案内し、新たに導入したオンライン決済システム「Congrant」により御寄附を募った。令和4年1月から、「つながる募金」での寄附も受入れを開始した。
- ・ これまでに支援した京町家の改修と通り景観の修景をギャラリーレビューで一挙に紹介するページを設けた。
- ・ 外部メディアと連携した発信を行うことにより、ファンドの特設WEBサイトへの誘導を図った。

(イ) 連携協定締結

一般財団法人日新電機グループ社会貢献基金、京都市、京都市景観・まちづくりセンターで、文化財の維持・保存・活用、京町家の保全・継承及びこれらのPRに関する事業についての連携協定を締結している。令和3年度は、令和2年度に引き続き、京町家の保全・継承に係る改修助成に対し、50万円の寄附をいただいた。

(ウ) 「MACHIYA VISION」展での啓発

展示会場において京町家まちづくりファンドへの寄附の呼びかけを目的としたパネル展示やリーフレットの配布を行った。また、大口寄附者をプレオープンにご招待した。

(2) 京町家カルテ・京町家プロフィール・京建物カルテの作成

京町家の価値への理解を深め、保全・継承に繋げるため、京町家の歴史や文化的な価値をまとめた「京町家カルテ」、内容はカルテより簡易であるが、発行までの所要時間が短く低料金である「京町家プロフィール」を発行した。令和元年度からは、京町家以外の近代和風建築などに対して「京建物カルテ」を発行した。

令和3年度は、令和2年度に行った京町家カルテ・プロフィールの追跡調査を基に整理分析とともに、他都市の類似制度との比較や、外観意匠の変遷調査などについて大学との共同研究を行うため、受託研究の委託契約を締結した。

	令和3年度発行件数	令和2年度発行件数
京町家カルテ	14件	10件
京町家プロフィール	96件	69件
京建物カルテ	5件	2件

(3) 京町家に関する普及啓発業務(京町家カルテ簡易版の作成)(京都市受託事業)

所有者の京町家保全・継承に努める意識を醸成するため、京町家条例における個別指定京町家を対象として、新たに京町家カルテの簡易版を作成した。

	令和3年度発行件数	令和2年度発行件数
京町家カルテ簡易版	4件	8件

(4) 建物調査報告書作成業務（京都市受託事業）

保全・再生を目指す大型京町家等の所有者に対して、建物調査報告書作成の支援を行い、京都市の歴史的建造物関係各課と連携して、今後の保全や公的指定等に向けた取組を行った。
令和3年度は、京町家2件について、建物調査報告書を作成した。



(左京区)



(下京区)

(5) 建造物指定に係る調査資料作成業務（京都市受託事業）

京町家条例における個別指定京町家のうち、景観重要建造物又は歴史的風致形成建造物等の指定候補となる京町家について、審議会に提出する諮問資料作成のための調査資料を作成した。

	作成件数
景観重要建造物候補	2
歴史的風致形成建造物候補	7
景観重要建造物及び歴史的風致形成建造物候補	1
合計	10

5 公共人材育成に関する教育及び研修

(1) インターンシップ受入

当財団を実務経験の場として提供し、大学での履修科目と実際の現場での実務経験を通して、公共的感性を持った人材を育成することを目的に、連携大学からインターンシップ履修生の受入れを例年実施している。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令により中止となった。

大学	学部等	人数	受入期間
京都女子大学	現代社会学部 現代社会学科	1	令和3年8月25日～27日/中止
京都女子大学	法学部 法律学科	1	令和3年9月02日～03日/中止

(2) 視察受入

国内外の行政機関、大学等からの視察を受入れ、当財団の活動紹介等を行った。自主財源増加の取組として、賛助会員への加入を条件としている。

4団体

受入日	団体名	人数	内容
R3. 6. 10	京都市立芸術大学 美術学部	25	・京都のまちと京町家
R3. 9. 10	京都府立朱雀高等学校	27	・京町家の継承
R3. 11. 10	神奈川学園高等学校	27	・京町家の継承
R3. 12. 16	小浜商工会議所	15	・京町家の継承 ・まちづくり活動支援と地域の取組について
合計		94	

(3) 講師派遣

講師派遣の依頼に応じて当財団職員を派遣し、当財団の活動紹介等を行った。
令和3年度は動画配信された。

派遣日	派遣先	人数	内容
R3. 11. 23	京都女子大学	79	連携活動入門「まちづくりの担い手としての市民 京都のまちづくり」
合計		79	

6 景観整備機構に関わる関連業務

景観法に基づく景観整備機構として、景観重要建造物候補に値すると判断した京町家について、京町家なんでも相談や京町家まちづくりファンド助成事業等と連携し、景観重要建造物への指定を推進するとともに、建物の特性や所有者の意向に応じた他の公的指定（歴史的風致形成建造物、京都を彩る建物や庭園、国登録有形文化財等）への提案も行う。

また、相談等に応じてきた京町家等について、公的指定等に向けて継続的な支援を行っている。

【歴史的風致形成建造物 指定済】3件



(中京区)



(北区)



(東山区)

【今後、指定等につながる見込みの案件】 1 件



(北区)

【「京都を彩る建物や庭園」に推薦して選定された案件】 1 件



(中京区)

7 京都市景観・まちづくりセンター管理運営

令和3年度から令和6年度までのセンターの指定管理者として選定された。センター来館者の増加、施設価値の向上を目的として以下の取組を行う。

- ・センター利用者数 22,787人（令和2年度末 37,937人）
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、施設の一時閉館や時間短縮を行った。
 - 閉館 4月25日～5月31日、8月20日～9月30日
 - 時間短縮 4月12日～4月24日、6月1日～8月19日、10月1日～10月21日

(1) 京のまちかど展示コーナー

展示物やボランティアガイドによる京都のまちづくりの歴史や暮らしを紹介する。ボランティアガイド9名により概ね週3回はボランティアが配置できる体制が整備された。これを契機として、教育機関への働き掛けや積極的な広報活動により利用者の増加を図った。

- ・京のまちかど利用者数 24,938人（令和2年度末実績 25,742人）
＜利用者拡大に向けた取組＞
- ・関西文化の日（関西の博物館等の文化施設連携イベント）に参加
- ・第25回京都ミュージアムロードに参加

(2) 図書コーナー

ひと・まち交流館 京都 図書コーナーを運営している。

- ・所蔵資料数 令和3年度末時点（ ）内は令和2年度末時点の点数

内 訳	点 数
一般書籍	14,552 (12,413)
郷土資料	1,116 (1,066)
行政資料	1,012 (1,009)
視聴覚資料	302 (310)
雑誌	447 (402)
地図、絵本等	559 (558)
合計	17,988 (15,758)

- ・利用状況

内 訳	令和3年度末実績	令和2年度末実績
利用者数	10,812人	15,943人
利用者カード新規発行数	113枚	105枚
利用者カード延べ発行数	4,092枚	3,979枚
図書等貸出数	2,354点	2,009点

ア 巽和夫文庫の開設について

故・巽和夫氏（元京都大学名誉教授、都市住宅学会初代会長、元全国建築審査会協議会会長）の御遺族や有志による「巽和夫記念文庫プロジェクトチーム」（代表高田光雄京都大学大学院工学研究科教授）の御協力の下、巽氏が所蔵されていた資料2,105冊の蔵書を当財団に寄贈いただいた。これを広く市民の皆様に活用いただくため、ひと・まち交流館図書コーナーに「巽和夫記念文庫」を設置している。

イ 利用者拡大に向けた取組について

- ①毎月4センターが交代で企画した「企画展示」を行っており、2週間ごとに季節や時事的話題に沿った題材で「ピックアップ」展示を行っている。
- ②ひと・まち交流館地下1階に設置されている国宝洛中洛外図屏風（上杉本）実物大複製パネルを活用し、屏風に描かれた室町時代の京都の四季とそこに暮らす人々の生活風俗を紹介する催し（ギャラリートーク）を行っている。

開催日	テーマ	出席者
R3. 04. 29	「洛中洛外図 二つの国宝」	中止
R3. 07. 11	「洛中洛外図 二つの国宝」 R3. 04. 29 振替分	23
R3. 10. 30	「中世の疫病と御霊会」	14
R4. 01. 29	「中世の芸能民」	中止
R4. 03. 19	「中世の芸能民」 R4. 01. 29 振替分	22

(3) まちづくり交流サロン

まちづくり交流サロンにおいて、京町家の構造などが分かる模型のほか、ミニチュアハウスと紙彩画の展示「着物づくりと京町家」を常設展示している。より多くの来館者が見学できるよう、ワークショップ3内から移設した。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の取組を契機に、交流サロンの一部を休憩スペースに改装し、テーブルスタンドを設置、飲料の自動販売機を併設とした。

(4) まちづくり工房

コピー機、印刷機、紙折機、製本機等を設置し、主催、共催事業等での活用、登録団体への貸し出しをしている。

<稼働回数> 86回（令和2年度末実績 54回）

(5) ワークショップルーム

景観・まちづくり大学をはじめとする主催、共催事業等での活用のほか、登録団体への貸出しを行っている。令和4年6月から新たに使用料が設定された。使用料は860円/時間。

ワークショップルーム3は、令和4年6月に京安心すまいセンターが移転し、同センターの執務室となった。

<稼働回数>

ワークショップルーム1 228回（令和2年度末実績 274回）

ワークショップルーム2 345回（令和2年度末実績 267回）

公2 京町家保全再生事業

良質な地域コミュニティの形成と歴史都市・京都の景観の基盤を構成してきた、京町家等の伝統的建造物を保全・継承し、伝統的な京都の暮らしの文化を今に活かすとともに、歴史資産としてのストックと新たに形成される良質な建造物とが融合した京都らしい活力のある歴史的町並みの形成を目的とする。

1 京町家まちづくりファンド改修助成

京町家まちづくりファンド基本方針に基づき、京町家の再生・修復、通り景観の修景に係る工事等の活動に対し、改修費用の一部を助成した。

令和3年度交付実績： 令和2年度選定分 3件（八田邸、山野邸、吉田神楽岡旧谷川住宅群）

合計 3件

【助成金交付案件】

令和2年度選定 八田邸（東山区）

助成対象工事

・屋根・外壁・外部建具・格子の改修（令和3年11月竣工）

東山区五条坂に位置する本二階建の京町家。京焼に従事していた祖父と父から受け継いだ京町家を、居住エリアと陶芸作品のギャラリー兼飲食エリアに分けて改修を行った。令和3年11月3日にオープンしたが、コロナ禍の影響もあり、現在は土日に朝ごはんと和カフェのみの営業を行い、金曜は地域の方々に座敷やカフェスペースを開放している。今後は書道教室や文化体験の場として、地域のコミュニティ形成に貢献できるような活用を目指している。

改修前



改修後



活用の様子



玄関



カフェスペース



ギャラリースペース



座敷（ワークショップ等に使用予定）

令和2年度選定 山野邸（中京区）

助成対象工事

- ・屋根・外壁の改修（令和4年3月竣工）

かつて料亭として地域の食文化に貢献してきた、築100年程になる数寄屋造りの建物を、地域に開かれた文化体験教室やワークショップ、地元の祭礼等で活用できるようにするために改修する計画。今回新たにカフェ・バーを併設し、令和4年3月にオープンした。

改修前



改修後



活用の様子



カフェ・バースペース



座敷（文化体験の場として提供予定）

令和2年度選定 吉田神楽岡旧谷川住宅群（左京区）

助成対象工事

- ・石畳側溝、擁壁の改修（令和3年6月竣工）

吉田山の東斜面に位置し、大正後期から昭和初期にかけて形成された数寄屋の町並みがほぼ原形を残している近代和風住宅群。個別の住宅の公的指定を目指すとともに、住宅群として通りや石垣等の保全と修景を目指す。

改修前



改修後



【進行中の案件の工事進捗】

令和3年度選定 郭巨山町会所（下京区）

助成対象工事

- ・屋根、外壁、外部建具の改修（令和3年6月末竣工予定）

祇園祭の34の山や鉾の町会所の一つであり、四条通に面して存続している木造の京町家型の町会所。懸装品の展示を行うにもスペースが不足しており、建替えも検討したが、建物の価値を再確認し、今後を見据えた増築による維持継承を図ると共に、増床だけでなく構造的な安全性も高める計画

改修前



改修の様子



鉄骨建て方見学会が開催され、申請者、設計者、町内関係者が集まった（令和4年1月27日）



増築部の屋根の工事が進行中である（令和4年3月時点）。

令和3年度選定 三条会商店街の町家（中京区）

助成対象工事

- ・屋根、外壁、外部建具、格子の改修（令和4年夏頃竣工予定）

京都三条会商店街の明治期の京町家を、看板建築から伝統的な外観に改修し、飲食店や子ども食堂など、豊かな「食」につなげるためのきっかけとなる場として活用する計画。申請者が同商店街にて営業を行う他店舗とも連携しながら、三条会商店街の景観を守り、賑わいに寄与することを目指す。

改修前



改修の様子



外観改修工事はほぼ完了しており、助成対象の工事としては犬走の復旧を残すのみ。現在内装工事を進めている。また、伏見の大型町家の改修工事で不要となったおくどさんを本町家に移設予定

令和3年度選定 吉田神楽岡旧谷川住宅群（左京区）

助成対象工事

- ・石畳側溝の改修、石垣の修繕（令和4年5月竣工予定）

令和元年度より継続しており3年目の事業となる。今回は木の根の成長により影響を受けた石垣の延石の修繕と石畳の側溝の蓋の改修を行う。石垣については令和3年12月に工事が完了している。

石垣（改修前）



石垣（改修後）



側溝(改修前)



2 京町家再生プロジェクト (再掲)

ワールド・モニュメント財団との連携を継続するとともに、京町家の魅力と現代的価値を海外に情報発信することで、海外の諸支援団体とのネットワークの形成を図る。

(参考)

京町家再生プロジェクト 第1期 釜座町町家 (平成23年度)

第2期 旧村西家住宅 (平成24年度)

第3期 四条町大船鉾会所 (平成28年度～令和元年度)

<第3期プロジェクト スケジュール>

H30.9 2018年ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞受賞

R1.5 ワールド・モニュメント財団役員、寄付者の来訪

R1.9 2019年ベスト・イン・ヘリテイジで発表、優秀賞受賞

収益事業

京町家まちづくりクラウドファンディング活用支援事業

広く国内外からの投資を募り、民間からの資金を導入することにより、幅広い担い手による京町家の保全・再生・活用を行い、もって京都固有のくらしの文化、空間の文化、まちづくりの文化の継承、発展と、まちなみ景観の保全及び創造、さらには地域経済の活性化を図ることを目的とし、投資型クラウドファンディングを利用した京町家の改修を支援する。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、京都市の事業費が削減され、募集を行わなかった。本事業の基金の清算に向けて検討を行った。

法人運営

1 理事会・評議員会

理事会、評議員会等を下表のとおり開催した。

【理事会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 35 回	R03. 6. 7	令和 2 年度事業報告及び決算について 顧問の推薦及び再任について 経理規程の変更、役員及び評議員の報酬等に関する規程の変更について 第 18 回評議員会の開催について 令和 2 年度資金運用結果について 評議員会への理事候補者名簿の提出について
第 36 回 (書面理事会)	R03. 6. 23	理事長及び専務理事の選任（再任）について
第 37 回 (書面理事会)	R04. 2. 10	第 19 回評議員会開催について
第 38 回	R04. 3. 14	令和 4 年度事業計画及び収支予算について 令和 4 年度資金運用計画について

【評議員会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 18 回	R03. 6. 23	理事及び監事の選任について 令和 2 年度事業報告及び決算について 令和 2 年度資金運用結果について
第 19 回	R04. 3. 17	令和 4 年度事業計画及び収支予算について 令和 4 年度資金運用計画について

2 賛助会員管理

賛助会員の拡大を目指し、当財団の事業活動を通じ積極的な呼び掛けを行っている。団体会員については、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、会員拡大のための企業訪問等は見合わせている。

平成 28 年から賛助会費が所得税の税額控除（従前は所得控除）対象となり、新規会員の拡大に努めている。

<入会状況>

令和 3 年度末（令和 2 年度末）

種別	延べ人数、団体数	会費収入
個人会員	173 人（183 人）	1,025,000 円（1,090,000 円）
団体会員	20 団体（21 団体）	1,000,000 円（1,050,000 円）
		2,025,000 円（2,140,000 円）

【参考】 年間会費 個人（1 口）5,000 円
団体（1 口）50,000 円

3 職員研修の充実

職員の資質、能力向上を図ることを目的として、研修に参加している。

開催日	研修名	講師
R3. 4. 1-4. 8	新任職員研修	当財団職員
R3. 6. 29	まち再生・創造推進室 転入者研修	まち再生・創造推進室の課長6名
R4. 3. 23	新任職員引継ぎ研修 カルテ・プロフィール	当財団職員
R4. 3. 25	新任職員引継ぎ研修 地域まちづくり	当財団職員
R4. 3. 29	新任職員引継ぎ研修 カルテ・プロフィール	当財団職員
R2. 1. 11-R4. 3. 2 [※]	京都市文化財マネージャー 育成講座	当財団職員

※当初日程（令和2年1月11日～7月25日）が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延長された

まちづくりコーディネーター向けに、業務関連資格の所得奨励制度を設けている。
令和3年度は、京都市文化財マネージャー育成講座の受講を支援し、1名が修了した。

4 その他

環境改善の取組として、KES（環境マネジメントシステム）ステップ1を推進した。

環境改善項目	
省エネルギー化	電力使用量9%減 (2021年度目標対比)
省資源化	事務用紙使用量削減42%削減 (2021年度目標対比)
啓発活動	建物周辺の清掃 (毎月1回平均9人以上の参加)
省エネルギー化	京町家カルテ・プロフィール及び 京建物カルテ作成115件